令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
99	川崎市立南生田小学校	羽深　東

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
心豊かで自らよく学び、たくましく活躍できる子どもの育成	①進んで学ぶ子～「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ②心豊かな子～人とかかわる力の育成 ③しなやかでたくましい子～運動に親しむ心の醸成

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	「主体的・対話的で深い学び」による教育実践	・校内授業研究 ・授業での話し合い活動の充実（協働学習・グループ学習）	・国語科の「読む」単元学習を通して、研究テーマ「自分の考えをもち、伝え合う子」の育成に向かって3年目を迎えた。授業づくりに向き合うためには、指導要領の目標が常に大切であることが共通理解できた。目標に示されていることをどう具現化していくのかは、これからの課題となった。 ・交流については、児童自身が交流する意味や必要性をもった段階で交流できるよう、「座席表」を活用し、友達の意見を分類・整理して、「何を知りたいから、交流したい」といった主体的な姿が見られるようになってきた。	・目標に示されていることをより理解していくために。解説を読み合ったり、講師の講義を受ける機会を設けることで明確化を図っていきたい。また他校での授業研究会にも積極的に参加していきたい。 ・自由に全体で交流する場を設けると、聞きたい意見の友達と直に関わることができるよさがある。学力の高い児童、関わる力のある児童にとってはよいが、ずっと声をかけられるのを待ったり、誰とも交流せずに時間がくる児童も見受けられたので、必ず交流できる仕組みをつくり、学習の場をどの児童にも保障できるようにしていきたい。
2	個別最適な学びを意識した授業実践	・GIGA端末を積極的に活用した個への対応 ・個別支援（ナントビー教室の活用） ・インクルーシブ教育への取組（教室環境の見直し・支援級児童の交流級学習時の対応強化）	・各学年でGIGA端末の扱いを話し合い、実践を積むことができた。 ・教科の特性に合わせたGIGAの取扱いについて、ある程度の実践例ができてきた。 ・個別支援の教諭と連携を取りながら、取り出し、学習環境の確保などができた。 ・特別支援児童が交流学習を行いやすいように、クラスの配置など工夫できた。一方で、ただ交流が目標になってしまい、インクルーシブとは何か、共通理解が難しいこともあった。	・実践例を共有し、誰でも取り組めるようにしていく。 ・教科や単元ごとに、端末利用や指導案などをデータベース化していく。 ・個別支援教諭との打ち合わせ時間が確保できるように、定期的に時間をとる。 ・支援教育Coと特別支援教諭が中心になり、交流授業時でのインクルーシブの目標ややり方を共有していく。
3	基礎・基本の確実な習得と活用	・昼の学習時間でのドリル学習 ・個に応じた習熟方法への対応 ・学習調査の結果の活用	・川崎市学習状況調査の結果から、漢字の読み書きには課題があり、指導方法に工夫すべき点がある。形を覚えるだけの反復練習ではなく、漢字のもつ意味を理解しながらの練習となるよう短文づくりなどの学習効果について共通理解した。 ・「個に応じた」では、苦手なことはしない、ということではなく、どのような段階を踏めばできるようになるのか教師の指導力を見直す必要がある。	・「漢字や計算のスキル」はこれまで学年当初に各学年が教材を選定していたが、児童にとって継続して取り組んでいけるよう、年度末の教科部会において検討していった。家庭学習での音読等についても、ねらいを段階をもたせ力を積み上げていけるよう共通理解した。 ・GIGA端末の適切な活用の場面を考える必要性を感じている。肉筆・肉声を大事にし、対面での関わりの中で「生きてはたらく力」を育んでいきたい。
4	人とかかわる力の育成	・キャリア在り方生き方教育による自尊感情や人とかかわる力の育成 ・学習を通して「聞く・話す」スキルの向上 ・あいさつの啓蒙 ・委員会活動やクラブ活動での異学年とのかかわり ・いじめの未然防止と早期発見早期対応	・キャリア在り方生き方教育では、年間プランに位置づけをし、各教科と関連させて取り組んだ。 ・「聞く・話す」スキルの向上については、3年間の校内研究において「伝え合う」ということに取り組んできたため、段階を踏んだ指導ができた。「話し方」「聞き方」の掲示について各学年の児童の実態に合わせて、精査しながら指導を積み重ねてきた。 ・挨拶をされれば返す児童は増えているが、自ら挨拶をする児童はまだ少ない。 ・「学校生活アンケート」を年3回実施している。本人の訴えだけでなく、周りの気づきもあり、早期発見に繋がっている。	・「聞く・話す」スキルについては、今後も学校全体で子どもの目指す姿の共通理解を図っていく必要がある。また、校内研究推進委員より提示されている「話し方」「聞き方」の発達段階に応じた目標について、どの学級でも取り組むことで学校全体の成果に繋がっていく。 ・計画委員のみの挨拶運動になっていたので、学校全体の課題として捉え、50周年に向けたスローガンにも繋がるように、挨拶の取り組みを学校全体で行っていくようにしたい。

5	人権尊重教育とかわさき共生＊共育プログラムの推進	・子供同士の人間関係を育む学級づくり	・共生共育プログラムは、年に7時間設定している。各学年でどのプログラムを実施するのかを、年間指導計画に記載し、重なりや漏れがないように実施した。 ・11月の人権週間には、学校公開日を設定し、道徳の授業、もしくは共生共育プログラムの授業を行った。 ・効果測定を年3回（1年については年2回）行うこととしている。その結果を各学年で見合い、困り感を抱いているであろう児童への支援を考えた。	・共生共育プログラムの年間指導計画について、定期的に見直しを行い、各学年の実態に応じて効果的なエクササイズを行えるようにしていく。 ・学校公開日の授業内容については、各担任に任せているので、どのような内容を行っているのかを交流するなどして、人権についての正しい理解につなげていく。 ・効果測定の結果を学年で考えることで、様々な視点から児童について考えを深め、支援を考えることができるので、今後も続けていく。 ・現在、低学年については男女一緒の部屋で着替えている。1年生については、空き教室があったため、そこで男女分かれて着替えを行っているが、学校物品などが置かれているような場所である。どのクラスにも、教室を仕切るカーテンを購入することで、同じ教室内で着替えが可能となり、教師の目も行き届くので、予算を組んで仕切りカーテンを購入していきたい。また性的マイノリティの配慮を考えると、そういった場所も必要になってくるのではないかと考える。
6	地域社会の人々とのかかわり	・保護者との協働 ・コミュニティースクールの推進 ・地域教育会議と共にした活動 ・ふれあい給食の実施 ・きめ細やかな学校情報の発信 ・スクールコーラスを中心とした地域行事への参加	・図書ボランティアや支援級ボランティア、水泳学習ボランティアなど、様々な場面で保護者の皆様の協力を得て、児童がより豊かに、そして安全に学習に取り組むことができた。 ・これまでは、学校だよりや学年だよりは、紙面での配付だったが、どこでもすぐに閲覧できるように、学校ホームページへの掲載に変更した。また、不審者情報なども配信メールを使用し、いち早く情報を共有できるようにした。 ・合唱団のコンクールや発表会の参加したり、地域のお祭りで教職員がパトロールしたりすなどで、地域の行事に積極的に参加することができた。	・今年度に引き続き、保護者ボランティアを募集し、保護者との協働を図っていく。そのために、学校全体として見通しをもった教育活動を行っていく。多くのボランティアの参加を促せるように、時間に余裕をもった募集が必要となってくる。 ・今後も学校だよりや学年だよりは学校ホームページに掲載し、いつでも閲覧できるようにしていく。また、子どもの命や安全に関わる内容については、配信メールを活用し、情報を共有していく。 ・家庭、地域、学校で児童を育てていけるように、今後も合唱団や地域行事へできる限り参加していく。
7	運動することへの親しみ 食育の推進	・スポーツフェスティバルの内容の吟味 ・キラキラチャレンジの充実 ・アレルギー対応などの安全な給食提供の徹底 ・栄養教諭を中心とした食育指導の充実 ・児童の健康への意識向上	・勝ち負けが前面に出る運動会から、体を動かすことを楽しむことを目的としたスポーツフェスティバルに変更し、4年が経過した。運動が苦手な児童にとって、参加しやすい環境となっていると感じる。一方で盛り上がりに欠けるといった保護者からの声も未だにある。スポーツフェスティバルの趣旨を理解いただく必要がある。 ・キラキラチャレンジでは、シャトルラン、ドッジボールなどを行った。自由参加だが、参加率は高く、キラキラチャレンジが体を動かす一つのきっかけとなっていた。 ・栄養教諭、養護教諭と連携した食育指導、保健指導を年間指導計画上にきちんと位置付けて行ってきたことで、学校評価アンケート「自分の健康に気をつける子」の項目の高学年児童の肯定的回答が多かった。	・学校教育目標にそったスポーツフェスティバルであることの周知を今後も丁寧に行うことで、保護者の方への理解を得ていきたい。 　また、種目・ルール等、児童の思いをより取り入れ、さらに自主的で楽しいスポーツフェスティバルを目指していきたい。 ・勝ち負けを受け入れることの経験も、教育活動では大切なことと考える。キラキラチャレンジや体育の授業など、観覧する方がいない場面での競技は今後も継続して行っていきたい。
8	働き方改革に向けた取組	・休憩時間の明示による勤務の自己管理の意識向上 ・会議の精選 ・GIGA端末を使用した情報共有 ・安心して休める安定した補教体制	・休憩時間を徹底して保障したことで、職員に時間に対する意識の向上が図られた。 ・GIGA端末による情報共有ができたことで、会議時間の短縮が図られた。	・昨年度と比較すると、時間外勤務時間を減少することができたが、十分とはいえない。授業準備の時間はしっかり確保しながら、一人一人が時間外勤務の減少の目標をもてるような取組をしていく。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
・国語の研究をしていることが、教室掲示から伝わってきた。6年生の姿勢の良さが伝わった。中学校との学習の繋がりを今後考えていけたらいい。 ・みんな落ち着いて授業を受けられている。 ・たくさんの児童が発言していて、授業に活気がある。 ・話し合いの仕方について学んでいたが、今後のコミュニケーションに大切な学習だと思った。 ・GIGA端末を当たり前に使っていて驚いた。 ・地域行事への参加がもっとふえていったらいい。	・まだまだ教師が話し過ぎる授業が見られる。児童が主体的に話し合いながら深い学びとなる授業を目指していきたい。 ・いじめは、教師が気づくよりも保護者からの相談で発覚することが多い。いじめの早期発見やいじめを起こさない具体的な取組を強化していきたい。 ・多様な学びに応えられるような体制づくりを推し進めていきたい。 ・スポーツフェスティバルにおいて、勝ち負けが前面に出る種目を減らし体を動かすことの喜びを感じられる種目をそろえてきて、4年目になる。児童や保護者へのアンケート結果からも、着実に運動好きの児童が増えていることから、この方向性は維持していきたい。ただ個にも目を向け、現状から落ちることなく、さらに運動好きを増やせるように、体育の授業やキラキラチャレンジでの取組の充実を図っていきたい。